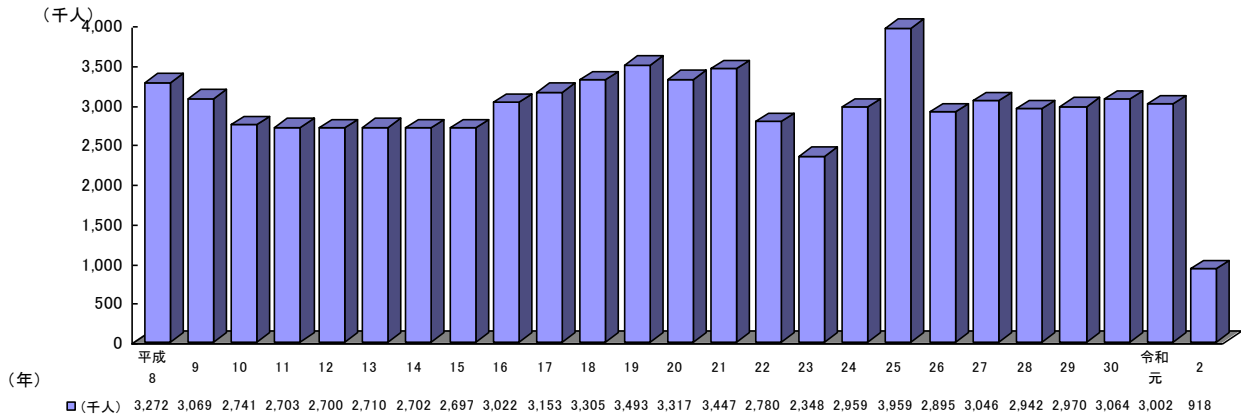


# 令和2年会津若松市観光客入込みの概況について

## 【会津若松市観光客入込の推移】



令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出・移動やイベント開催など、さまざまな社会・経済活動の自粛が求められ、本市においても、鶴ヶ城天守閣をはじめ主要な観光施設や宿泊施設が休業を行うなど、観光産業に大きな影響が生じました。その結果、令和2年に会津若松市を訪れた観光客の総数は918千人となり、前年から2,084千人の減少(対前年比30.6%)となりました。

「Go Toトラベルキャンペーン」や県の宿泊割引事業など、国を挙げて観光需要喚起の経済対策が実施され、本市においても、感染防止対策の徹底による安全安心の受入態勢整備を図りながら、観光目的のプレミアム付商品券の発行や旅行エージェントの旅行商品造成支援などにより、観光誘客の促進と地域内の消費喚起に取り組んだところであり、夏から秋にかけては、教育旅行が急激に増加するなど観光入込の回復が進みました。

しかしながら、全国的な感染拡大は止まらず、年末には全国で「Go Toトラベルキャンペーン」が一時停止され、春から夏にかけての大幅な落ち込みの影響とあわせて、年間の観光客入込数は大きく減少することとなりました。

宿泊者数は、東山・芦ノ牧温泉が対前年比65.4%、市街地の旅館・ホテルが対前年比65.2%まで減少し、観光施設も、鶴ヶ城天守閣の入場者が対前年比54.0%、他の主要観光施設も平均で対前年比55.4%まで減少しました。また、訪日外国人観光客については、入国制限により3月以降は皆無となり、宿泊者合計は9,124人と、対前年比で36.5%に止まりました。

一方で、教育旅行は、首都圏の大規模校の多くが旅行自体を中止しましたが、栃木県、新潟県からの新規来訪が増加し、全体で1,149校(対前年比120.2%)となり、震災以降で最多となりました。

令和3年は、東北デスティネーションキャンペーン、さらには東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が予定され、本市においてもこれを契機とした観光の回復が期待されているところであり、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染症対策の徹底を図りながら、アフターコロナに向けて一層の観光誘客を図ってまいります。